

9

静岡県静岡市

城南静岡高等学校・中学校

- 学科等 / 中高一貫・専門学科(商業科)
- クラス数 / 21クラス
- 生徒数 / 840人
- 建築主 / 学校法人長崎学園
- 所在地 / 静岡県静岡市駿河区南八幡町1-1
- 工事種別 / 改築
- 敷地面積 / 16799㎡
- 延床面積 / 6208㎡
- 竣工 / 2006年10月

立体的な施設構成による情報・学習環境と活発なコミュニケーション空間の実現

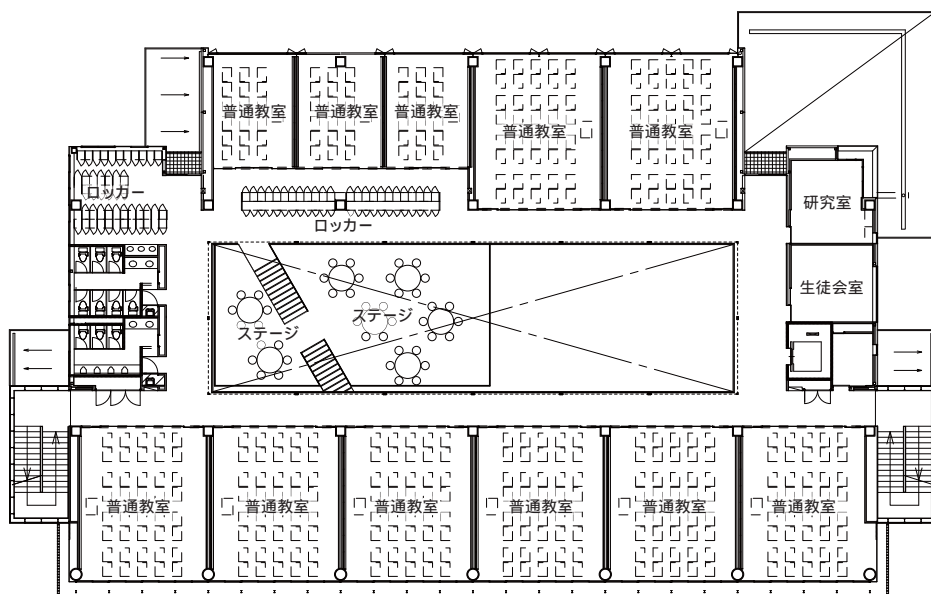
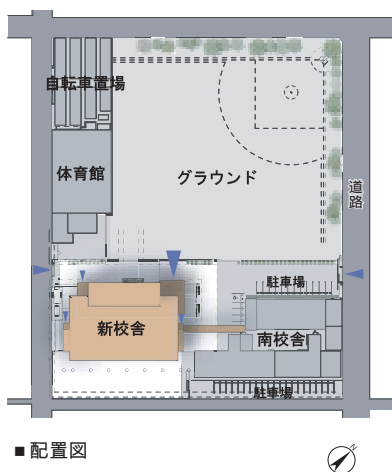
都市の限られた敷地でのコンパクトな立体的配置。学習空間と連続した2層吹き抜け・回遊空間での生徒・教職員等の視覚的コミュニケーション・一体感を生み出す空間構成。



校舎の全景。コンパクトな建物となっている。

計画に見られる指針改訂のポイント

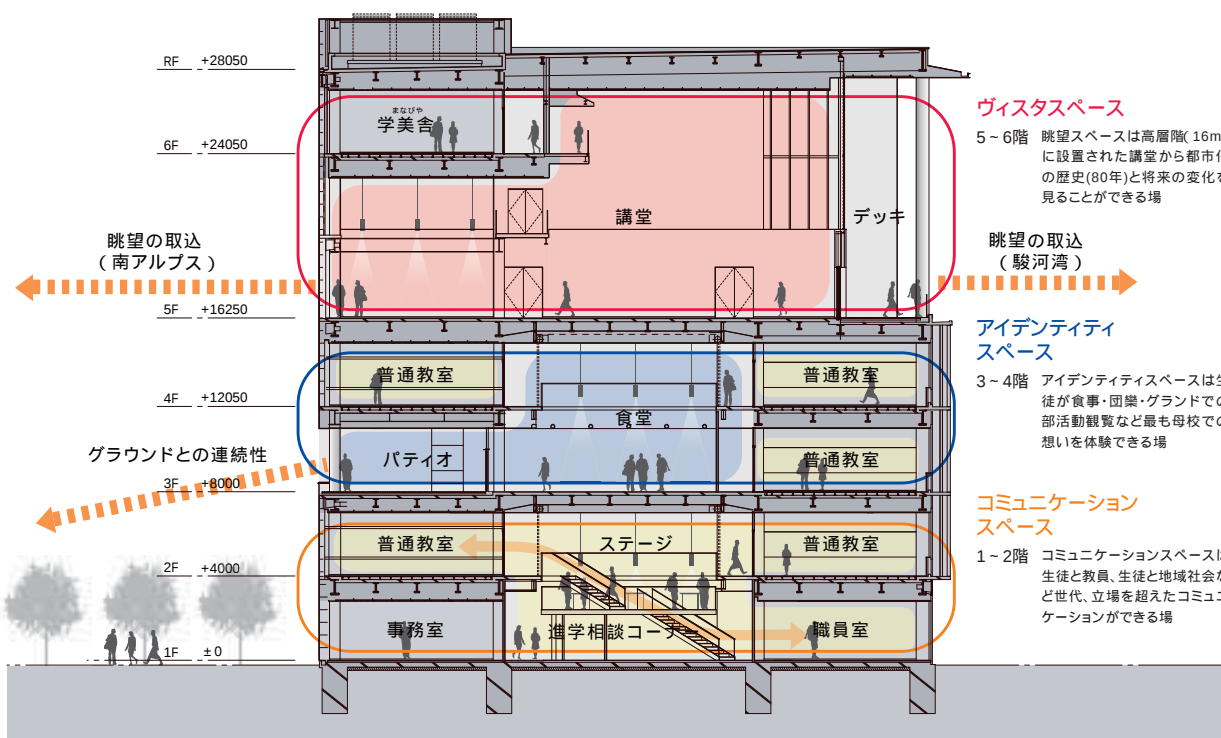
1. 主体性を養う空間の充実
2. 情報教育の充実
3. キャリア教育・職業教育の充実



■2階平面図

1. 主体性を養う空間の充実

└「3つのテーマから「教える」と「学ぶ」のコミュニティを空間化



1 断面構成図。



2 クロスオーバーなコミュニケーションが可能な中2階ステージ。進学関係の資料等も設置されている。



3 回遊性のある廊下からつながる教室。廊下側はガラス間仕切りのため、一体感が生まれている。



4 多様な用途に使われる講堂は、可動式の間仕切りを開けると、デッキから駿河湾が一望できる。

校長の視点

コミュニケーションと
地域とのつながりを意識

中2階ステージにあるコミュニケーションエリアは、生徒同士はもちろん、生徒と教職員との接点となる空間です。3階の食堂は異学年の交流の場となっています。食堂に隣接した半屋外のパティオは生徒のリフレッシュ空間です。校舎の壁面はガラスの割合が高いため、校舎内が明るいとよく言われます。また保護者会等への参加人数が増えました。

その理由として、廊下側からでも教室内がすべてよく見えるため、との声が多く聞かれます。

1・2階が吹抜けになっているので来客の対応時などに生徒の声が気になるかと思いましたが、特に問題はなく、玄関フロアは気持ちの良い空間です。また、外国の高校との国際交流の際には畳を敷いてお茶会のおもてなしもでき、さまざまに活用されています。校舎からは毎日東西南北の景色を楽しめ、一年を通じて自然の変化を感じるこ

とができます。(写真2～4、図6)

2 .情報教育の充実

└すべての教科でパソコンを使った授業が可能



5 プロジェクタを利用した授業。効率的に授業を進めることができ、生徒の理解が一層深まる。



6 1階のエントランスホールの壁にはプロジェクタからの映像を投影できる。進路の説明会や地域とのイベントにも使われる。



7 校内すべての机にパソコンをLAN接続できる環境が整っている。

教職員の視点

「教える」ことから 「サポートする」へ

本校では、すでに、生徒の学習活動のいろいろな場面で、コンピュータが介在しています。将来のICTの進展は、生徒の自律性や自発性をさらに伸ばし、私たち教職員はサポートする側へと立場が変化していくと考えています。そのため、本校はユビキタス(コンピュータの存在を意識することなく利用できる)な教育環境の実現を目指しています。施設の

対応としては、例えば、各クラス全員の生徒の机の上にパソコン用の電源とLANポートを配備しており、また、各教室にプロジェクタ及びスクリーンにもなるホワイトボードが設置されています。このことにより、すべての教科でインターネットを活用した効果的な授業を行うことができます。

ICT活用による実践的な学習活動として、校舎の6階の「学美舎(まなびや)」で、実際に静岡市内などの企業から参加を得て、同名のオンラインショッピング

モールを運営しています。企画から運営までをすべて生徒自身の手で行うこととしており、授業の一環として、協力店の開拓からホームページの作成と管理を行い、地域に密着した、生きた教育が実現しています。(写真5、7、8、図6)

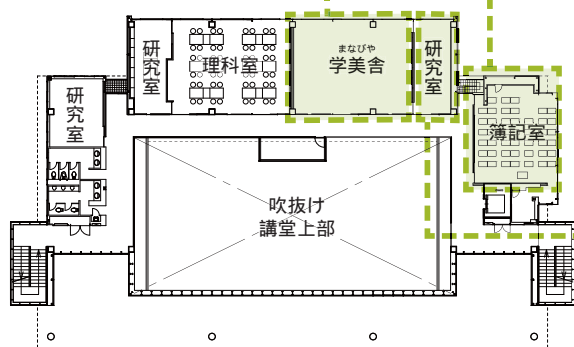
3. キャリア教育・職業教育の充実 実践的な教育で生徒が持つ将来のイメージを具体的に



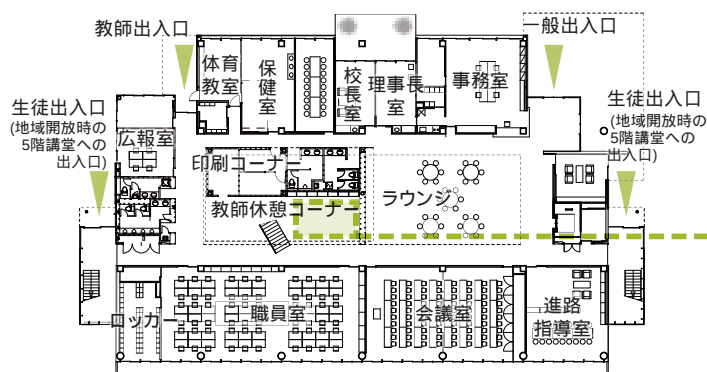
8 学美舎(まなびや)という教室では、
実社会に即した授業を展開



9 簿記室は資格取得に特化した教室で、同校の象徴的な教室と
位置づけられ、最も眺望の良いところに設置されている。



10 6階平面図



12 1階平面図



11 「学美舎」の隣には研究室があり、教員が常駐して生徒の相談に応じている。



13 職員室前にある相談スペースには進路用の資料や教材が置かれており、
いつでも先生に相談ができる。

設計者の視点

学校内での教員と生徒のコミュニケーションの充実や地域社会とのつながりの再構築、自然への理解などが新しい学校空間構成の要素として空間化することが求められました。3つの異なる吹抜けに配したそれぞれのスペースは次のような狙いで計画しました。

1～2階

「コミュニケーションスペース」
管理部門やエントランスホールのある1階と、2階の教室群を吹き抜

けでつなぎ、その中間に交流のためのステージを設け、教員と生徒、学校と地域社会など、世代、立場を超えたコミュニケーションを図る場としました。(写真2、図6)

3～4階

「生徒と学校のアイデンティティスペース」

吹抜けの食堂と外部のパティオで構成され、もっとも母校を意識する空間として計画しました。

5～6階

「歴史と未来のヴィスタスペース」
建学の精神を象徴する講堂では、卒業式や入学式、地域への開放が行われ、多くの人たちへヴィスタ(眺望、展望、希望)を与え続けます。(写真4)